

鎌倉市教育委員会文化財部

# 調査研究紀要

創刊号

平成31年(2019)3月  
鎌倉市教育委員会

鎌倉市教育委員会文化財部調査研究紀要

創刊号

平成31年3月

鎌倉市教育委員会



鎌倉市教育委員会文化財部調査研究紀要

創刊号

平成 31 年 (2019) 3 月 31 日発行

編集 鎌倉市教育委員会文化財部  
文化財施設課

発行 鎌倉市教育委員会

『鎌倉市教育委員会文化財部調査研究紀要』の創刊にあたって

鎌倉市教育委員会文化財部長  
梶淵 規彰

本書は、鎌倉市教育委員会文化財部に属し、博物館業務及び埋蔵文化財業務等に携わる職員が、日頃の調査研究の成果を発表できる場として創刊したものです。本書への投稿を通じて学芸員の学術的水準の向上を図るとともに、鎌倉の学術振興、さらには調査研究成果の市民の皆様への還元を目的としています。

学芸員の任務は積極的且つ緻密な調査研究に基づく博物館運営であり、埋蔵文化財他の文化財保護事務の執行であると考えられます。そうした意味において、調査研究なくして学芸員の活動はないといっても過言ではありません。そして、その成果は学芸員個人あるいは行政内部にとどめることなく、公表されることにより市民の皆様をはじめとする多くの方々が活用することが可能となり、学芸員の職務の成果が還元されることになると考えます。

鎌倉では言うまでもなく、文献史学では『吾妻鏡』をはじめとする中世史研究、考古学では中世都市を対象とする数多くの調査などが進められてきましたが、これまで鎌倉市としてそれらを体系的にまとめることがなかなかできませんでした。今後の課題として、歴史学や考古学、周辺諸科学の成果をとりまとめ、鎌倉研究の成果を市として体系化する必要がありますが、本書の創刊がその第一歩となることを期したいと思っております。

創刊号としては、小部ではありますが、先学諸兄ならびに市民の皆様におかれましては、忌憚のない批評をお寄せいただき、本市の学術的水準の向上及び学術振興にお力添えいただきたくお願い申し上げます。

平成 31 年(2019)3 月 31 日

## 目 次

1. 昭和 11 年（1936）に雑誌『鎌倉』に記された「郷土博物館」論 青木 豊 … 3
2. 【連載】鎌倉における『吾妻鏡』に記された陰陽師等の方位表記とその位置について(1) 玉林美男 …11
3. 古代鎌倉郡家の“津”をめぐる一考察 押木弘己 …19
4. 鎌倉における過去の津波について 浪川幹夫\*・平田恵美・辻亜紀・萬年一剛 …35